広見短歌会

末孫の引越し荷物送り出したたずむ庭に鶯の鳴
高田 治子

花に生き花に死なむと【西行】を鄙に咲き継桜に思おゆ
武田 幸子

明日の午後俎の鯉となる私医師の言葉に少し安堵す
佐々木登美子

山里は彼岸すぎてもみぞれ降る南天の葉に白く積りぬ
兵田トミ子

空家にも季節が来れば花は咲く友を忍びてしばし眺むる
伊手リツヱ

満開の桜に手作り弁当と親子で憩う丸山公園
二宮 安恵

マンモスの親子が並ぶ宇和の里カメラの親子もたわむれてをり
芝 幸子

魅せられて短歌始めし年の暮れ七十才の手習ひにして
西添 春子

明治からの先祖の墓を移し終へ五代目の吾れひとりくつろぐ
山本まつゑ

歌人なれば茂吉の如く書を極めよと師の暖かき便り出し見つむ
蛭谷 寿子

もつれ糸コーヒータイムとけてくる
吉井 興一

マイホームコーヒー冷めぬ程の距離
宮岡 沙代

湿っぽい話コーヒー冷めてくる
栗木 一郎

コーヒーの香りゆっくり痼り解け
都 瞳

待ち人はまだかコーヒー三杯目
宮川 柳酔

一杯のコーヒー熟女よくしゃべる
合田 悦子

コーヒーが別れ話へ冷えてゆく
渡辺 光男

ブラックコーヒーあおり男がすっと立つ
宇都宮 孝

モカの香り好きになりそう初デート
金子すすむ

一円玉舞台でライト浴びはじめ
加藤 桂子

自分史は一人芝居のままだった
財前 渓子

脇役のオーラが舞台独り占め
森本 幸美

山里に地震前ぶれ雉が鳴く
武田 浅美

敗戦はデッドボールで始まった
宇都宮 忍

きほく川柳会

鬼北の足跡を辿る…【第8回】

二人の力士と行司の五輪塔

清水地区

昨年度、町内全域の古い石造物（五輪塔・石碑・灯籠など）の調査を行いました。年代・特徴・由来のさまざまな石造物が数多く残されています。

その中で、愛治小学校下の町道沿いにあり、特異なエピソードを持つ三体の五輪塔を紹介します。

昔、松の森古市（現在の清水・元愛治駐在所の西あたり）で相撲が催された際の話。ある力士の取組が行われたが、実力が伯仲し、一向に勝負がつきません。

相撲での決着がつかず、完全に頭に血が上ったものか、二人の勝負はやがて死闘へと発展。ついには双方の力士とも力尽きて果てるという事態となりました。

これに色を失ったのが行司。凄惨な光景を目の当たりにして騒ぎ出す群衆の中、ついに責任を取って切腹してしまいました。

こうして亡くなった二人の力士と行司の五輪塔が建てられ、清水の守り神として田の中の古いエノキの下に祭られましたが、昭和54年の基盤整備事業で現在の位置に移されました。

相撲は、昔から大衆の娯楽の一つとして親しまれてきました。町内にも相撲にまつわる民話が多く残っていますが、このような話は類を見ません。現在では、この悲話を知る人も少なくなりましたが、今でも町道沿いの一画にひっそりと祭られています。

亡くなった３人の五輪塔